

2章 都心まちづくりの展開戦略

■ 1 都心まちづくりの展開戦略

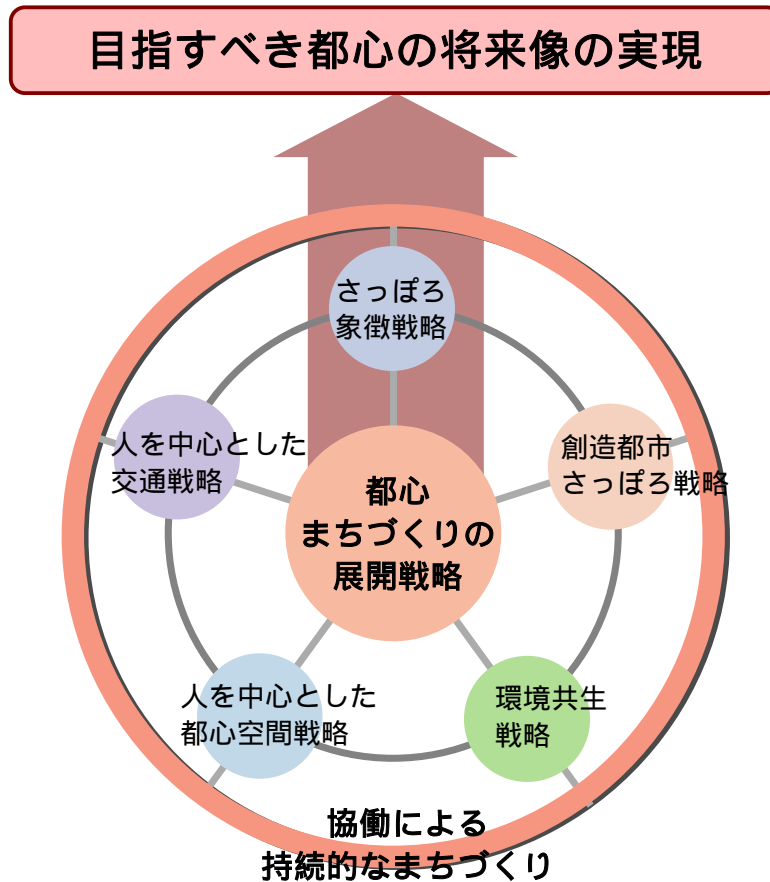
1-1 将来像の実現に向けた都心まちづくりの取組の方針

1) 都心まちづくりの展開戦略

目指すべき都心の将来像を実現するためには、戦略性を持った中長期的な取組を段階的に展開する必要があり、さらに、社会情勢の変化に対応できる柔軟性を備えた取組を進めることが重要となります。

そのためには、都心まちづくりの基本的な考え方をまちづくりに関わる多様な主体が共有し、連携して取り組むことが求められます。

このような観点から、都心まちづくりにおける具体的な取組の方針を「都心まちづくりの展開戦略」として位置づけます。



1-2 都心まちづくりの5つの展開戦略

【展開戦略1】さっぽろ象徴戦略 ～さっぽろの持つ魅力を象徴する都心～

展開戦略の背景とねらい

札幌がアジア・世界レベルでの都市間競争の中で確固たる地位を築いていくためには、都心において高次な都市機能の集積を図り、世界都市の顔として国内外に札幌の魅力をたゆまず発信し続けていくことが求められます。

「世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心」の実現に向け、札幌の新たな魅力と活力を都心において来街者がひと目で見て取り、体感できる象徴性を有する街並みを創造します。

戦略のテーマ

世界都市さっぽろを象徴する都心の骨格構造の強化・形成

実現方策

都心のまちづくりを象徴する骨格軸の強化・展開軸の形成

特有の役割や歴史的価値を持った、札幌を象徴する通りである骨格軸において重点的にまちづくりを進めるとともに、創成川以東地区のまちづくりの基軸となる展開軸を形成します。

骨格軸の強化

にぎわいの軸（駅前通）

- ・地下歩行空間の整備、地上部の再整備による新たな回遊性とにぎわいの創出
- ・「創造都市さっぽろ」を象徴する空間の形成



はぐくみの軸（大通）

- ・札幌らしさを象徴するとともに、人々の多様な活動を支える空間の創出
- ・開発の動向の合わせた東方向への延伸の検討



やすらぎの軸（創成川通）

- ・創成川通親水緑地空間の整備による、「環境首都・札幌」を象徴する都市環境の創出
- ・北方向への機能強化の検討



うけつぎの軸（北三条通）

- ・札幌の都市形成を支えた歴史的価値の継承
- ・みどりのある美しい景観の形成



展開軸の形成

いとなみの軸（東四丁目線）

- ・都心の新たな魅力を象徴する創成川以東地区の基軸の形成
- ・北三条通、大通の2つの東西軸との連携により、創成川以東地区はもとより、都心全体の回遊性を向上



都心のまちづくりを象徴する交流拠点の強化・形成

新たな活動や交流を生み出し都心全体のまちづくりを先導する交流拠点において、象徴的なまちづくりを進めます。

交流拠点の形成

札幌駅交流拠点

- ・これまでになかった新たな機能の導入や、交通結節点機能の強化による道都札幌の玄関口にふさわしい拠点の形成

大通交流拠点

- ・地上と地下の一体的な整備による、都心での中心性を象徴的に表現する「サッポロ広場」の形成

創世交流拠点

- ・官民協働のまちづくりによる、先進性、独自性、多様性のあるにぎわいの創出
- ・市民交流複合施設の整備などによる、札幌の新たな創造性の象徴と発信

【展開戦略2】創造都市さっぽろ戦略 ～創造性に富む人々が集い、活動する場～

展開戦略の背景とねらい

「創造都市」とは、「市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような創造の場に富んだ都市である」とされています。

一方、札幌市は平成18年3月に、「創造性に富む市民が暮らし、外部との交流によって生み出された知恵が新しい産業や文化を育み、絶えず新しいコト、モノ、情報を発信していく街」を目指す意志を明確にするため、「創造都市(sapporo ideas city)宣言」を行っています。

都心においては、「創造都市さっぽろ」を象徴的に発信する場を創出するなど、「創造性」を生かしたまちづくりを進め、新たなまちづくりの方向性を先導し、象徴的・集約的に具現化する場の形成を目指します。

戦略のテーマ

「創造都市さっぽろ」を象徴する場の形成と担い手の育成

実現方策

「創造都市さっぽろ」を象徴的に発信する場・機会の提供

市民やクリエイターの創造性を原動力とした創造的な活動を象徴的に展開する場と機会を提供します。

創造活動のプラットフォーム⁵としての創世交流拠点の形成

- ・世界都市さっぽろ、集客交流都市さっぽろにふさわしい、文化芸術振興及び創造活動の拠点となる市民交流複合施設の実現

<市民交流複合施設の機能>

高機能ホール・・・国内外の優れた現代舞台芸術などの公演に対応できる国際水準のホール

アートセンター・・・札幌らしい文化芸術を創出するため、文化芸術の「つくり手」と「受け手」をより積極的に育成するとともに、それらの良好な関係づくりを担う拠点

⁵ プラットホーム：鉄道駅にある、列車に乗り降りするための台状の場所。ここでは、「上部のさまざまなもの（多様な創造活動）を広く大きく支え、結びつけるもの」を指す。

創造活動センター・・・「創造都市さっぽろ」の理念を具現化し、「創造活動のビジネス化」「次世代人材育成」「交流・発信」などの観点から創造的な人づくりを推進する拠点

公共空間における創造的な場の形成

- ・大通公園や創成川公園でのアートワークなど、公共空間における創造的な場の形成や活動を展開

地域特性を生かした地下ネットワークの創造的な活用

- ・駅前地下歩行空間（北二条地下広場）における映像装置によるメディア・アートなどの発信や、地下鉄東西線コンコース（大通駅・バスセンター前駅間）における「500m美術館」の常設化など、地下ネットワークの活用を推進



「創造都市さっぽろ」を発信するイベントなどの展開

- ・札幌の持つ創造性・文化性を象徴的に発信し、世界と連携できるイベント（国際芸術展など）の展開と既存のさまざまな文化・芸術イベントの連携

「創造都市さっぽろ」を支える人材の育成とビジネス化の機会の提供

市民やクリエイターの創造性を育む環境を創出するとともに、創造活動をビジネス活動に結びつける機会を提供します。

身近な創造的空間の創出

- ・既存施設の有効活用や民間開発などを通じ、市民やクリエイターが身近に創造活動に触れ、参加できる場や機会を創出



アートセンター

- ・多様な分野の実践者、専門家から知識や構想力を学ぶ「場」をつくるなど、文化芸術の担い手の育成を支援

創造活動センター

- ・子どもから大人まで、次世代の創造活動の中心を担う人材の育成
- ・創造活動がビジネス活動へと結びつく環境の整備



創造活動の展開が想定される公共空間

【展開戦略3】環境共生戦略 ～みどりのある美しい街並みと、環境低負荷型のまち～

展開戦略の背景とねらい

環境政策の基本的指針である「札幌市環境基本計画」では、札幌に集うすべての人々が、参加と協働により、地球環境の保全に貢献する都市づくりに、先駆的・積極的に行動する「環境文化都市」の実現を目指すこととしています。

都心の環境保全・創造に取り組んでいくうえでは、エネルギーや資源の効率的利用を積極的に推進し、環境への負荷を抑制していくこと、さらには、高次な都市機能が集積しながらも、美しい街並みのあるまちとして、幾世代にも受け継がれていくような都市環境を守っていくことが「環境首都・札幌」の実現に向けて重要な取組となります。

戦略のテーマ

豊かなみどりを備えた街並みの形成

環境低負荷型のまちづくりの先駆的展開

実現方策

まちづくりを通じたみどりの創出とネットワーク形成の推進

まちづくりなどを通じて、まちなかのみどりの創出とネットワークづくりを進め、札幌の顔である都心のみどりの充実と質的向上を図ります。

札幌の顔となる景観の創出

- ・大通公園、北三条通などの「重要なみどりの軸」、西二丁目線、東四丁目線などの「主なみどりの軸」や、道庁前庭、時計台などの拠点を中心に、札幌の顔となる都心部における樹木を主体とした景観を形成

まちづくりに合わせたみどりの創出

- ・公有地のほかに、開発予定地においても豊かなみどりを確保していくほか、地区計画などの制度の運用やさまざまな支援を活用し、容積率緩和など事業者へのインセンティブ⁶を確保しつつ、オープンスペースなどでの緑化を推進

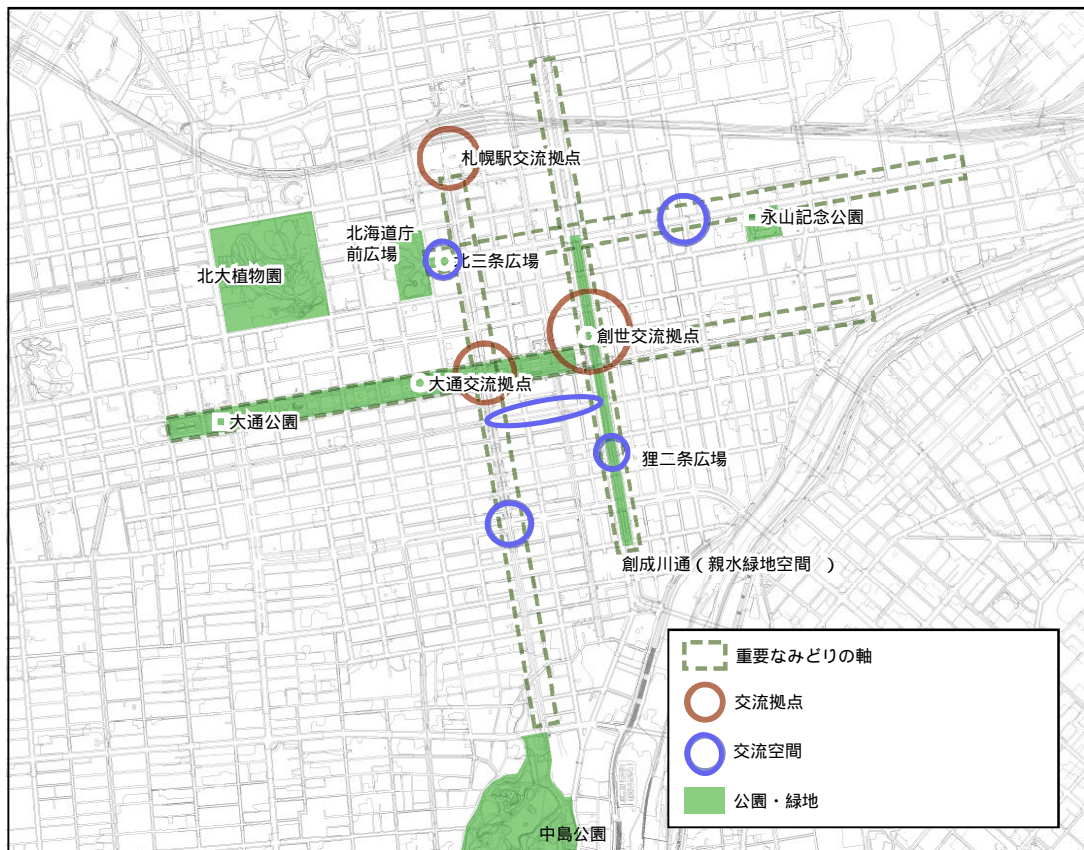
象徴的な樹木の保存

- ・都市におけるみどりの大切さをPRすることで市民の理解と協力を得ながら、景観重要樹木や保存樹木の制度を通じ、歴史のある貴重な樹木などの保全を、公有地だけでなく民有地においても推進

⁶ インセンティブ：インセンティブの本来の意味は「奨励」「刺激」など。ここでは、事業者の公共貢献を誘発する取組（容積率緩和など）を指す。

札幌らしい緑化の推進

- ・花やコニファー⁷を用いたコンテナガーデンなどを活用した街並みづくりを、市民や企業との連携のもと進めるとともに、積雪寒冷地の気候に適合した緑化技術の開発や緑化に対する支援の制度を整えるなど、札幌らしい緑化を推進



都心のオープンスペース・ネットワーク

⁷ コニファー：針葉樹の総称。常緑性の種類が多く、園芸や観賞用に利用されるものをコニファーと呼ぶことが多い。

エネルギーや資源の効率的な利用による環境負荷の抑制

エネルギーや資源の効率的利用を積極的に推進し、環境への負荷を抑制します。

人と環境を重視した都心交通の推進

- ・公共交通機関の利用促進
- ・人や環境にやさしい路面電車の導入検討
- ・自転車利用環境の向上

コンパクトな都市構造の形成

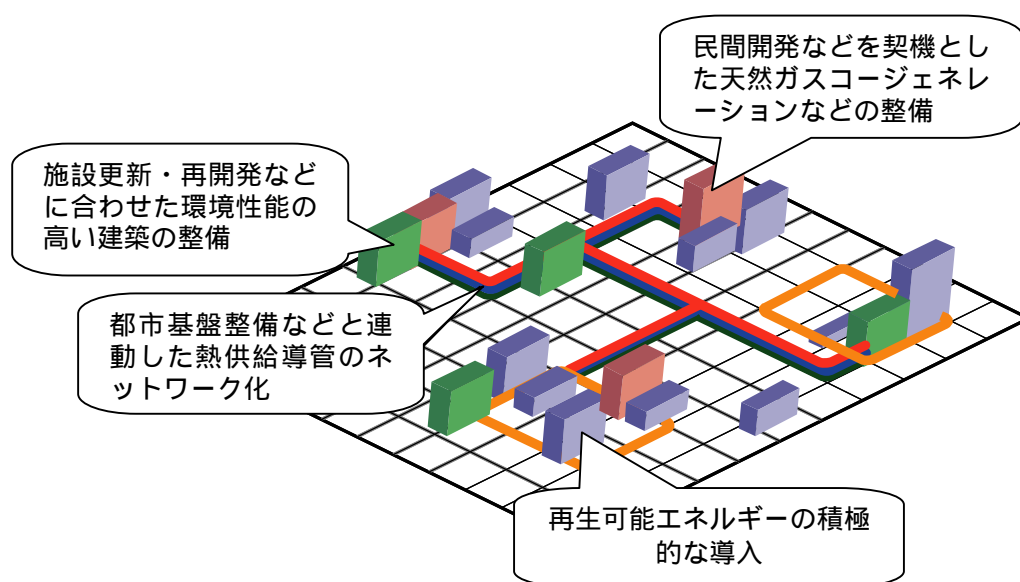
- ・高次な都市機能の集積に加え、都心居住も含めた、質の高い、高密度な複合市街地を形成

環境低負荷型のエネルギー利用の推進

- ・都市基盤整備と連動した天然ガスコージェネレーション⁸のネットワーク化や再生可能エネルギーの活用などにより、環境低負荷型のエネルギーシステムの構築を推進
- ・LED照明⁹など、省エネルギー設備の導入を積極的に推進

環境低負荷型の建築物の普及促進

- ・「CASBEE 札幌¹⁰」を通じた省エネ建築物の普及促進と「CASBEE 札幌」における高性能物件購入への優遇措置



⁸天然ガスコージェネレーション：天然ガスなどを燃料としてエンジン、タービン、燃料電池により発電し、その際に生じる排熱を回収してお湯や蒸気をつくり、給湯や暖房に利用する熱電併給システム。省エネルギー性、経済性に優れる。

⁹LED照明：発光ダイオードを使用した照明器具。低消費電力、長寿命の特徴がある。

¹⁰CASBEE 札幌：札幌市建築物環境配慮制度。環境に配慮した建築物の普及を目的に、建築主が自らその建築物に係る環境に配慮した事項について評価を行い、その結果を本市に提出することを義務付けている。

【展開戦略4】人を中心とした都心空間戦略 ～界わり性を感じるまち～

展開戦略の背景とねらい

成熟社会において、まちの魅力と活力を高めるためには、都心に集う人々の活動やにぎわい、交流、憩いの風景が日常的に見える街並みを創出していくことが重要になります。

豊かな公共空間は人々の多様な活動を生み出し、その活動が他者を惹きつけ、人が人を呼び、さらに複数の人が同じ場にいることで新たな活動が発生します。

そのため、このような活動を支える場として、街路や広場、公園などの公共空間（「交流空間」）を創出していくことが重要です。

また、札幌の特徴的な格子状街区において、街区を割る小路や建物内の通り抜け空間など、多様な街路空間を創出することで、変化に富んだ奥行きのある街並みを形成し、表通りにはない都心の新たな界わり性を生み出します。

戦略のテーマ

多様な活動を支える場としての公共空間の形成とネットワーク化

実現方策

回遊や交流を支える交流空間の形成と界わり空間の創出

大通公園を始めとする、象徴性のある「骨格的な交流空間」、市民の多様な活動を支える「拠点的な交流空間」を適正に配置するとともに、これらの規模や性質の異なる空間を地上地下の多様性に富んだ街路によってネットワーク化し、新たな回遊、交流を創出します。

また、民間によるまちづくりへの参画を促し、開発などを通じて、身近な公共空間（「界わり空間」）を創出します。

骨格的な交流空間

- ・大通公園、創成川公園、北海道庁前広場、永山記念公園、北海道大学植物園

拠点的な交流空間

- ・回遊性を支える拠点的な交流空間を、骨格軸などの交わる結節点に配置（縦3街区×横3街区程度）

今後創出する交流空間・・・札幌駅交流拠点、大通交流拠点、創世交流拠点、北三条広場、狸二条広場

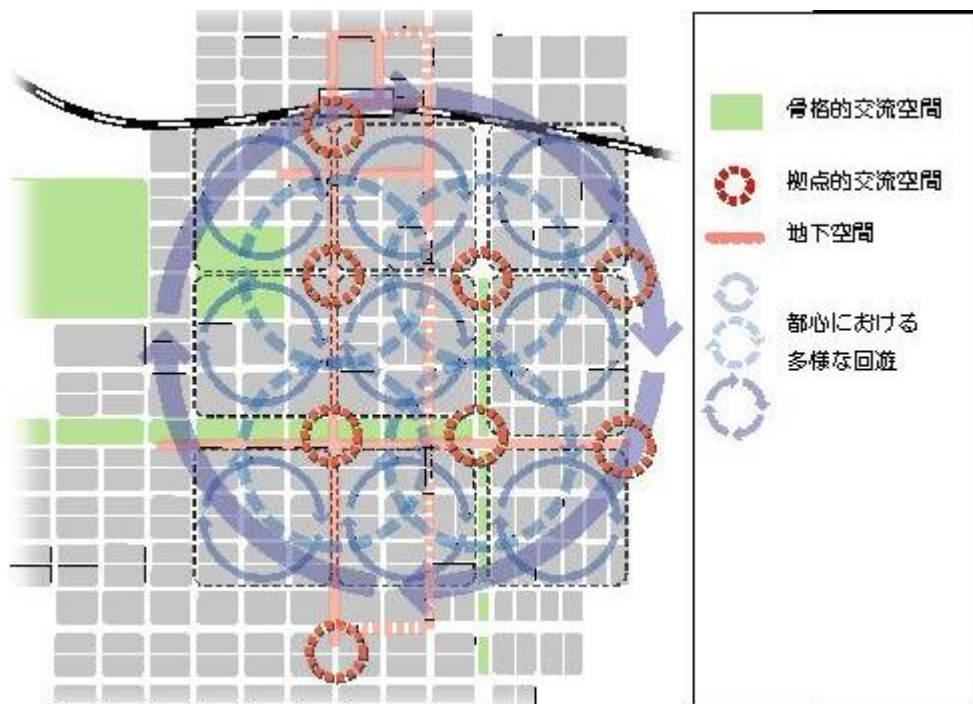
今後検討すべき交流空間・・・南一条通地上部、北三条通・東四丁目線交差点周辺
駅前通・月寒通交差点周辺など

交流空間のネットワーク

- ・骨格軸などの強化や再開発などに合わせた地下空間の整備により、交流空間相互をネットワーク化

地下空間の整備・・・・・・駅前通地下歩行空間（平成 23 年完成予定）

地下空間の整備検討・・・・・・南一条地下空間、西二丁目地下空間



都心における多様な回遊

「界わい空間」の創出

- ・民間開発などを通じた、変化に富んだ奥行きのある身近な公共空間（「界わい空間」）の創出

支援制度の充実

- ・民間開発などを通じた「界わい空間」の創出に対するインセンティブの付与の検討
想定されるインセンティブ
都市計画法・建築基準法などの弾力的運用（容積率緩和、駐車場附置義務の緩和など）

【展開戦略5】人を中心とした交通戦略 ～まち歩きを楽しめる都心～

■展開戦略の背景とねらい

人を中心とした魅力ある都心を創出するためには、交通の側面においても、歩行者や自転車、路面電車などの公共交通といった交通手段に力点を置くことや、都心に目的のない通過交通を都心部以外に誘導することで、過度に自動車に依存しない、選択性の高い人を中心とした都心の交通体系の実現を図ることが重要となります。

また、積雪寒冷地である札幌の都心が、四季を通じて「歩いて楽しい都心」としての魅力を発揮するために、地下空間の拡充と活用を図ります。

■戦略のテーマ

回遊や交流を支える交通環境の充実

地上・地下の回遊ネットワークの形成

■実現方策

人を中心とした安全・快適な回遊ネットワークの形成

歩行環境の整備や自転車利用環境の改善、公共交通システムの拡充など、人を中心とした安全で快適な回遊ネットワークを形成します。

歩行・自転車走行環境の強化

- ・北一条・雁来通や東四丁目線などにおける歩行環境の強化
- ・自転車走行空間の明確化

駐輪場の整備

- ・安全性と良質な景観を備えた快適な歩行環境の実現に向けて、既存空間の活用や、民間開発などに合わせて需要や利用特性に応じた駐輪場を確保

公共交通の拡充検討

- ・新たな回遊やにぎわいを生み出す路面電車の導入など、人や環境にやさしい公共交通の拡充を検討



地下空間の拡充と回遊を生み出す活用の推進

四季を通じて快適な歩行環境を創出するため、官民の協働によりバリアフリー¹¹な地下空間の拡充を図ります。また、地下空間においてさまざまな活用を促すことで、都心に新たなにぎわいを創出します。

地下空間の拡充

- ・再開発などに合わせた地下歩行空間ネットワークの拡充を図るとともに、隣接する民間ビルの建替えやそれに伴う地下接続を促進

地下空間の整備・・・駅前通地下歩行空間（平成23年完成予定）

地下空間の整備検討・・・南一条地下空間、西二丁目地下空間



地下空間活用の推進

- ・地下空間活用の基本的な考え方に基づき、空間の特性に合わせた活用を推進

<地下空間活用の基本的な考え方>

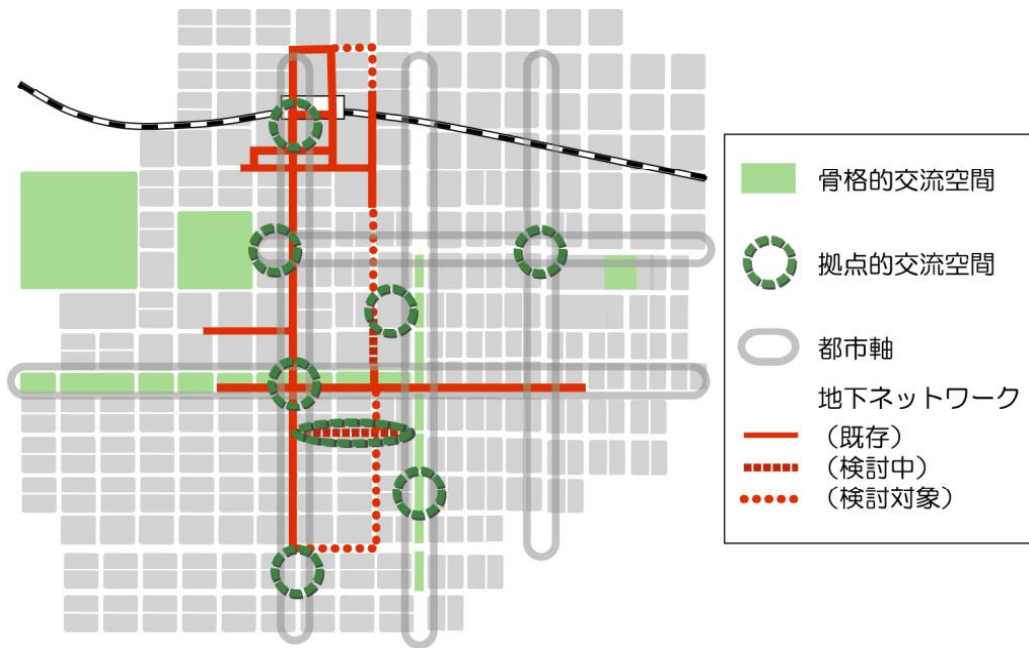
活用ネットワークの形成・・・地下空間それぞれの規模や特性に合わせた活用を図ることで、多様性のある地下ネットワークを形成

複合的活用の推進・・・さまざまな用途を組み合わせた、複合的な地下空間活用を推進

地上・地下の連携促進・・・地上・地下の相乗効果・相互補完に資する一体的な活用

活用主体と枠組みの確立・・・地域による自主的な空間の運営や活用など、地域のまちづくりと一体となった活用の枠組みを構築

¹¹ バリアフリー：公共的建築物や道路、住宅などで、高齢者や障害者に配慮された設計のこと。



交流空間と地下空間のネットワーク

1-3 都心まちづくりの展開プログラム

都心まちづくりの5つの展開戦略を実現するため、今後10年間程度の実施を「都心まちづくりの展開プログラム」として位置づけ、戦略的なまちづくりを進めます。

展開プログラム

<p>展開戦略1 さっぽろ象 徴戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前通地下歩行空間及び地上部の再整備 ・創成川通親水緑地空間の整備 ・北三条通の強化 ・景観計画重点区域の検討（道庁周辺地区、北三条通など） ・東四丁目線の強化 ・札幌駅交流拠点の再整備 ・大通交流拠点の再整備 ・創世交流拠点（創世1.1.1区）の整備
<p>展開戦略2 創造都市さ っぽろ戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民交流複合施設の整備（高機能ホール・アートセンター・創造活動センター） ・駅前通地下歩行空間（北二条地下広場）の整備 ・500m美術館の常設化 ・アートイベント（国際芸術展など）の展開
<p>展開戦略3 環境共生戦 略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木を主体とした街並みの形成 ・貴重な樹木の保全 ・緑化推進支援制度の活用 ・公共交通機関の利用促進 ・路面電車の導入検討 ・自転車利用環境の向上 ・環境低負荷型のエネルギー利用の推進 ・環境低負荷型の建築物の普及推進 ・北4東6周辺地区のまちづくりの検討
<p>展開戦略4 人を中心と した都心空 間戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北三条広場の整備 ・狸二条広場の整備 ・創世交流拠点（創世1.1.1区）の整備 ・南一条地下空間の検討 ・南一条通地上部広場化の検討 ・北三条通・東四丁目線交差部周辺の広場化検討 ・駅前通・月寒通交差部周辺の広場化検討 ・西二丁目地下空間の検討 ・民間開発などへの支援制度の検討
<p>展開戦略5 人を中心と した交通戦 略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北一条・雁来通の整備 ・東四丁目線の強化 ・自転車走行空間の明確化 ・駐輪場の確保 ・路面電車の導入検討 ・南一条地下空間の検討 ・西二丁目地下空間の検討 ・地下空間の活用検討